

徒然草

旅の楽しみ：予期せぬこととの遭遇

湊 直信
国際大学客員教授

Rapid Rural Appraisal（迅速農村調査法）を開発したサセックス大学のロバート・チェンバースは調査者が陥りやすいバイアスについて指摘している。例えば、雨季を避けるために乾季に訪問する乾季バイアス、調査者は車両を使用するため、道路がある場所や車で行ける場所を訪問しやすい道路バイアス、プロジェクトが実施されている場所を訪問しがちなプロジェクトバイアス、インタビューをする場合には英語が話せたり、地域のリーダーである人の発言を重視するエリートバイアス、現地の社会文化的文脈の下で男性から多くの意見を聞く結果になってしまう男性バイアス等である。

今年の9月のカンボジア訪問では二つの思わぬことに遭遇した。今回の訪問時期は、いわゆるベストシーズンではなかったが、逆に、カンボジアの政治状況の一端を観ると同時に、毎年巡ってくる雨季の状況や人々の対応ぶりを目のあたりにする事が出来た。この思わぬこととの出会いはカンボジアの現況を少しでも知るという意味において、大きな収穫であった。

プノンペンでは王宮の近くのホテルに滞在した。その前には大きな通りと緑色の草で覆われた広場が広がり、素晴らしい見晴らしである。人々はこのんびりと歩き、話をし、寝ころび、平和そのものである。そのホテルを拠点に毎日仕事に出かけた。ある月曜日の朝、朝食のために一階のレストランに降りてくると、いつもは車や人の雑踏が聞こえてくるロビーは日曜日の朝の様に静寂である。大きな窓から外に目を向けると車も人も全く見えない。不思議に思い、ホテルの人に聞くと、王宮一帯はバリケードでブロックされており、このホテルはブロックの中なので安全だとの話である。どうやら選挙に関して与野党が鋭く対立しており、政府側が反対勢力のデモに備えて、予防的にバリケードを築いたらしい。いつもなら、車で移動するのだがその車がホテルに近づけないらしい。歩いてバリケードの外に出なければならないが、一旦バリケードの外に出ると内側のホテルに本当に戻れるか心細い。

交差点に作られたバリケードは真新しい鉄条網が渦を巻いて大きな輪のようであった。そこでは警察官が交通整理をし、車やバイクは望んでいない方向に迂回させられたり、反転させられている。バリケードの中のレストランやカフェもお客が外から入ってくる事ができないせいか、臨時休業状態である。昼食は一軒だけ開いていた韓国レストラ

ンで済ませた。カンボジアの民主化の過程を垣間見る気がした。結局、私はバリケードの外側にある、市場の近くの庶民的で喧騒な地域のホテルに移動して、仕事を続けた。

プノンペンから北東に位置するコンポンチャムへ車で移動した。コンポンチャムを更に進むとベトナムのホーチミン市まで道路は続いている。9月後半は雨季の直後である。道路は河と並行し走っている。右側に見える河の水は液体の粘土の様に茶色に濁り、水位は道路面の近くまで上がって来ている。そして、左側には農地、牧草地があるはずであるが、河の水がどこからか浸入して湖の様な有様である。少し高台となっている道路の近辺には、家屋の他に牧草地から逃げ来たのか、牛の群れが狭い土地にひしめき合っている。牛の飼い主は見当たらない。人々も集まっているが、釣りをしたり、中には楽しそうにボートに乗っている人もいる。ようやく目的地のホテルに到着した。

ホテルは幅広いメコン川に面している。メコン川は地図で見る限りチベット高原から中国南部、ラオス、ミャンマ、タイ、カンボジアを通り、ベトナムから南シナ海に流れている。この国際河川は物流や観光開発に大きな可能性を持っていると思われる。私の宿泊した3階の部屋の窓から斜め右に日本の援助で建設された絆橋が河をまたいでいるのが見える。河の水は茶色く濁っている。左から右に流れていく大きな木の枝を見る限り、その速度はかなり速い。大きな木の枝には未だ緑の葉が沢山残っているのを見ると、上流の豪雨の凄さや、土砂崩れの様子が想像できる。ホテルの窓からふと下を見ると人々が集まっていた。人々の視線の先には、河の側面の低い堤防から水が溢れ出しており、河と並行して走る道路に浸入を始めている。警察官がパトカーで駆けつけた。十数名の人々が土嚢を作り、それを河と道路の境に積み始めた。徐々に人の数が増えて50名ぐらいの人々が集まってきたが、慣れた様子で作業は淡々と行われている。最終的に土嚢は5段階ぐらいに積み上がり、何とか河からの水の浸入を食い止めた。毎年同じようなことが繰り返されているのだろうか。人々は慣れた様子で淡々と落ち着いて作業を行っていた。

今回のカンボジア訪問に際して、時期が選挙と重なり、政治的に不安定化することはある程度予想され、また雨季であることは十分承知していたが、諸般の事情で時期をずらすことはできなかった。勿論、調査の仕事を行うためには政治的にも安定している時期が望ましいし、雨季は河が氾濫したり、道路が冠水するため、雨期を避けて乾季に行く方が仕事はしやすい。しかしながら、別の見方をするならば、調査者が状況の悪い時期を避けるということは、現地の最悪の状況を見逃すという結果になる可能性が大きい。結果的に、ロバートチェンバースの指摘しているバイアスを避けることができたのかも知れない。